

得等により社内管理を行つて  
いる。

もう一つはデータの偏りを  
管理して正確さを向上させる  
外部精度管理だ。共通試料で  
一斉に分析を行い、自社の結  
果が中央からどのくらい離  
れているかを統計的に評価す  
る。他社と比較するので、客

理に取り組んでいる。

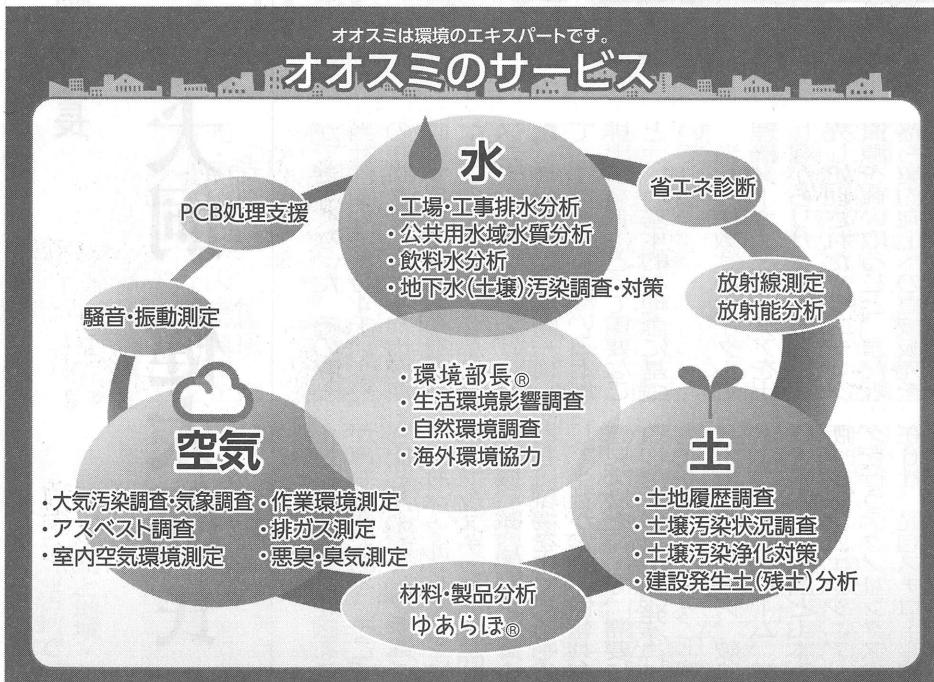
一つは、データのばらつきを管理して精密さの向上に取り組む内部精度管理だ。回収試験、二重測定、安定性試験等で測定結果のばらつきをチェックしている。今までのノウハウを取り入れた標準作業手順書を完備することで、一定レベルの技術者であれば安定したデータが得られる。その他、機器点検等各種記録類の整備、データの計画的取得等により社内管理を行っていいる。

在、東京など4カ所に支店を設け、環境調査・測定・分析・コンサルティング事業を展開しており、近年は東南アジアを中心に海外活動もしている。

当社では、分析機関として最も重要なのは、精度管理への取り組みであると考えている。例えば、機械の性能は年々上がっているが、使うのは人である。使い方や数字の読み取り方を誤れば、間違った結果が出てしまう。こうしたヒューマンエラーを防ぐ品質保証体系の基となっているのが精度管理だ。

# 精度管理の徹底による正確さと精密さの追求

オオスミは環境のエキスパートです。  
**オオスミのサービス**



積極的に進める中、あえて人の力を信じ、得られた数字の裏側にある、本当の意味を伝えることをとても大切にしている。そして、当社にはそれができる、多くの資格を持つ技術者がいる。

海外ではますます環境汚染が深刻さを増している。経験から得られた技術を持って、地球の環境に貢献していくことが当社の使命と考えてい

観的な視点で改善できる。外部精度管理の試験は、水・土・大気に含まれる化学物質や絶縁油中PCB、アスベスﾄ、臭気測定等を対象として、環境省が主催するものから、日本環境測定分析協会、神奈川県環境計量協議会、横浜市環境技術協議会、日本作業環境測定協会において、かなり環境協会まで、開催団体や内容も多岐にわたる。

当社では3つ目として独自の共同精度管理を実施している。これは、当社と同業他社の2社で行う。外部精度管理は、結果が出るまで時間がかかり、評価が悪かった場合、結果を知るまで誤った値を出し続けるしまう恐れがあるが、共同精度管理では結果の比較が素早くできるため、問

題点を直ちに改善することができる。また、技術者同士が直接情報交換を行うので、いろいろな観点で分析内容を深く検討することができる。分析機械は毎回点検を行っていられるが、装置の微妙な不具合は自社だけでは直ぐに気付かない場合もある。しかし他社とのデータを比較することにより速やかに発見ができる。顧客が価格と納期だけで共同精度管理の利点である。



オオスミ  
代表取締役社長

大角 武志氏

# 環境新聞社 2015年11月25日発行 環境新聞社創立50周年記念特集 環境ビジネス トップに聞く！